

CONTENTS

～学長・センター長メッセージ～

「FD活動と「哲学教育」について」.....	p.1
「2015年度の活動について」.....	p.1

～全学FD研修会・活動報告～

学部FD活動状況報告会(立教大学BLP参観報告).....	p.2-3
新任教員FD研修会.....	p.4-5
カリキュラム・マップ作成の進捗報告.....	p.6-7
GPA活用アンケートの実施報告.....	p.7
TA(ティーチング・アシスタント)FD研修会.....	p.8

～FD活動紹介～

学内FD活動.....	p.9
学生FDチームの紹介と活動報告.....	p.10
各学部・研究科におけるFD活動Pick Up	
<ライフデザイン学部における学生意見交換会>.....	p.11

～FD推進支援室からのお知らせ～

他大学との交流.....	p.11
「関東圏FD連絡会」	
「全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)」	
FD推進センター活動報告(平成27年3月～平成27年7月).....	p.12
平成27年度FD推進センター組織.....	p.12

FD活動と「哲学教育」について

学長 竹村 牧男

近年、東洋大学では、FD活動の重要性が広く認識され、学部独自の活動も多く行われるようになってきており、より先進的になってきていると思います。このことは、大変よろこばしいことと存じます。

FD活動の中心は授業改善にあります。その周辺には多くの課題が横たわっています。何と云っても、厳選されたカリキュラムの確立が必要であり、これは、各学科、専攻において十分議論を重ね、考え抜かれたものにしていく必要があります。そのためには、人材養成の目的・教育目標を明確にし、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー等を適切に定めるとともに、その下に作成されたカリキュラムについて、カリキュラムマップの作成、ナンバリング等を行ってその有効性を検証することは非常に重要なことだと思います。

また、そうしてできたカリキュラムの理念・目的を十分に達成するためには、シラバスの総点検も必要です。予習・事後展開学習の指示、成績のつけ方の解説等、シラバスの内容が適切であるかどうかを点検するのみでなく、科目間に授業内容の重複や偏り等がないかどうかをあらためて検証できることになるからです。多少、作業が大変であるかもしれませんが、学科・専攻等が学生に対しどこまでも教育上の責任を果たすためには、このことを厭

うわけにも行きません。

これらの用意のもとに、実際に授業が行われ、学生の評価を受けて授業そのものも改善していくことになりますが、ここで特に今日、きわめて大事なことは、アクティブ・ラーニングの導入と、学生の自学・自修の姿勢をいかに引き出すかにあると言ってよいでしょう。このことは、授業内容よりも授業手法に関わることでありますが、そうした、双方向性も重視した授業の実践が、実は教員と学生が事柄をともに深く考えていく「哲学教育」そのものになっていくことでしょう。「哲学教育」とは、「哲学」を教えることよりも、一段も二段も深く掘り下げて考えていくという「哲学すること」を訓練することとして捉えるべきであり、このことはどの科目においても実践されるべきことです。

東洋大学は哲学の大学であることは、かなり認知されてきていますが、今後、そのような意味での「哲学教育」を、ぜひ全学で展開していただきたいと念願しています。



2015年度の活動について

FD推進センター長 神田 雄一

本学におけるFD活動もお陰様で教職員のご尽力により充実した活動が展開されております。大学基準協会による評価においてもFD活動が評価されたことはその左証と言えましょう。本年度には主に三つのタスクを考えております。第一は、学生FD活動を中心としたピア・サポート体制の構築です。周知のとおり本学ではTA制度は確立されておりますがSA制度は学部でそれぞれ扱いが異なっております。また各キャンパスにおいて学修(習)支援室の活動が軌道に乗ってきました。このような中で学生を主体

としたピア・サポートの仕組みは授業の活性化をはじめとして教育の質向上に寄与できると考えます。第二は、SGUの構想実現に向けたFD関連の取り組みです。特にGPAやIRへの対応についてFDの観点からどのように実現させるかが課題です。第三は、教員の語学力の向上、特に英語で授業を行うための資質向上への取り組みです。FD委員会では各部会を中心にそれぞれの課題に対して真摯に取り組んでおります。引き続き教職員の皆様のご期待に応えるよう奮闘してまいります。

平成27年度 学部FD活動状況報告会

教育改善対策部会長 千明 誠（経済学部 准教授）

開催日時：平成27年5月30日（土）13:00～15:50

（懇親会 16:00～17:00）

会場：報告会 白山キャンパス 8B11教室

懇親会 白山キャンパス Tres Dining

5月30日（土）13:00～15:50に白山キャンパス（8号館8B11教室）において平成27年度学部FD活動状況報告会を開催した。

一昨年度までは、年度途中の12月頃に報告会を実施していたが、今回より、当該年度のFD活動を包括的に報告いただくため、5月に開催時期が変更となった。また、同時に報告会の内容についても、これまでの学内の先進的な取組の紹介だけでなく、外部講師の方をお招きした他大学の先進的な取組の紹介を加えることにした。

当日は、神田雄一FD推進センター長に開催挨拶・趣旨説明をいただいた後、日向野幹也教授（立教大学経営学部）より「SAとともに作るPBL（アクティブラーニング）」というタイトルで、立教大学の「リーダーシッププログラム」の取組についてご紹介いただいた。立教大学では2006年度の経営学部設立時から日向野先生が中心になってBLP（ビジネス・リーダーシップ・プログラム）という名称でPBL（Project-based Learning）に取り組んでこられた。当初は学内でも半信半疑であったそうだが、2008年度に「教育GP」に選定されてから徐々に学内体制も整備され、現在では全国的に注目を集める取組となっている。先生によれば、世界標準のリーダーシップとは権限・役職・カリスマと関係のないリーダーシップであり、具体的な行動としては、①成果目標の共有、②率先垂範、③同僚支援、である。これらを涵養

するためにはPBL（アクティブラーニング）が有効である。アクティブラーニングのポイントは学生にリーダーシップを発揮してもらうように促すことであり、それにはSAの役割が重要である。また講演の中で、現役のSAの方にも実際の活動についてお話をいただき、OBの松岡洋佑氏（株式会社イノベスト）からはSAの組織化と制度化について詳しい説明をいただいた。参加者からは積極的な質問もあり、アンケートではいくつかの学部で「参考にしたい」との声があった。

休憩をはさんで、後半の先進事例紹介では、まず理工学部の和田昇教授から「成績表・授業評価アンケートの活用」について報告をいただいた。理工学部の取組は科目別GPA値を作成して成績評価を可視化する試みである。具体的には履修者数と単位取得率や履修者数とGPA値の相関、さらに授業評価アンケートの結果とGPA値の相関等を用いて、成績評価の方法の公平・適切性についての検討材料を提供している。

国際地域学部の坂元浩一教授からは「英語による専門科目講義のピアレビュー」について報告をいただいた。国際地域学部では2007年度から「英語による専門科目」を導入し、文部科学省の「グローバル人材育成支援事業」の採択（2012年度）以降のFD活動はより組織化され、年4・5回、10名程度の教員が参加する取組となっている。そこでは、講義型の授業における英語による専門科目の成立には、学生の発言をいかに引き出すかがカギとなる等の議論がなされ、そのために当初はイマージョン型の授業に取り組んできたが、その後CLIL（内容言語統合型学習）の要素も採り入れた改善がなされている。さらに2014年度はピアレビューを試行（3回）し、今年度は各学科で4回実施する予定である。

東洋大学 FD推進センター主催

平成27年度 学部FD活動状況報告会

本報告会は、平成26年度に行われた各学部のFD活動に関する取組の紹介を中心とし、他学部にも波及効果があると思われる先進的な取組の紹介を主眼として行われます。あわせて学部より講師を招いた講演会も開催することで、互いに学び、気づきあうことを目指して、FD活動のさらなる活性化や改革、改善のための知見・スキル等を共有することを目的としております。

■開催日時 平成27年5月30日（土）13:00～15:50

■対象者 全教職員 ※聴取以外の方も歓迎いたします

■会場 報告会：8B11教室 白山キャンパス8号館地下1階
懇親会：Tres Dining 白山キャンパス8号館1階

【プログラム】

時間	内容	講師
13:00～13:30	開会	FD推進センター長 神田 雄一
13:30～14:00	講演会（10分～15分程度）	立教大学 経営学部 日向野 幹也 教授
14:00～14:30	休憩	
14:30～14:45	各学部によるプレゼンテーション（10分程度）	①理工学部 14:30～14:45 ②国際地域学部 14:45～14:55 ③経済学部 14:55～15:05
15:00～15:30	懇談会	各学部FD推進委員等
15:30～15:50	閉会	

※学部申し込み不要※

問い合わせ先：FD推進センター（内線・直通）内線：7130
E-mail: fd@taiyoudai.ac.jp

東洋大学 FD推進センター主催

講演会

1) 内閣府「ビジネス・リーダーシッププログラム」を推進した学部のリーダーシップ教育について（講演）

2) 国際地域学部「英語による専門科目」の導入とピアレビューについて（講演）

3) 理工学部「成績表・授業評価アンケートの活用」について（講演）

4) 経済学部「ピアレビュー」について（講演）

5) 経営学部「リーダーシッププログラム」の取組について（講演）

6) 法学部「ピアレビュー」について（講演）

7) 文学部「ピアレビュー」について（講演）

8) 教育学部「ピアレビュー」について（講演）

9) 社会学部「ピアレビュー」について（講演）

10) 心理学部「ピアレビュー」について（講演）

11) 情報学部「ピアレビュー」について（講演）

12) 芸術学部「ピアレビュー」について（講演）

13) 体育学部「ピアレビュー」について（講演）

14) 看護学部「ピアレビュー」について（講演）

15) 歯学部「ピアレビュー」について（講演）

16) 医学部「ピアレビュー」について（講演）

17) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

18) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

19) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

20) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

21) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

22) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

23) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

24) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

25) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

26) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

27) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

28) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

29) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

30) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

31) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

32) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

33) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

34) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

35) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

36) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

37) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

38) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

39) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

40) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

41) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

42) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

43) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

44) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

45) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

46) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

47) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

48) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

49) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

50) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

51) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

52) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

53) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

54) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

55) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

56) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

57) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

58) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

59) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

60) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

61) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

62) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

63) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

64) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

65) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

66) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

67) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

68) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

69) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

70) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

71) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

72) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

73) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

74) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

75) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

76) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

77) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

78) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

79) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

80) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

81) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

82) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

83) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

84) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

85) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

86) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

87) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

88) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

89) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

90) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

91) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

92) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

93) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

94) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

95) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

96) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）

97) 工学部「ピアレビュー」について（講演）

98) 農学部「ピアレビュー」について（講演）

99) 獣医学部「ピアレビュー」について（講演）

100) 薬学部「ピアレビュー」について（講演）



立教大学 日向野幹也教授

ライフデザイン学部の白石弘巳教授からは「FD活動の一環としてのシラバス点検」について報告をいただいた。ライフデザイン学部では、シラバス入力内容・ルール・点検スケジュール等について十分に情報共有がなされなかった等の問題が生じたため、2015年度シラバス作成については見本集(NG事例等を掲載)およびチェックリストの作成、シラバス説明会の実施、点検・修正作業の協力体制の徹底等、様々な改善を行った。その結果、修正を要するシラバスの件数が昨年度比で大きく減少し、また、修正依頼を行ったシラバスについては、全て修正を完了することができた。次年度は演習・実習科目のマニュアル作成等に取り組む予定である。

3学部いずれの報告に対しても、参加者から積極的な質問がなされた。また、参加者からも「大変参考になった」との意見が寄せられた。

さらに、後日、後述のとおり立教大学で「BLP」授業を見学し、実際の学生とSAの活動を目の当たりにして、SAの重要性和BPLの有効性を実感した。



理工学部 和田教授



ライフデザイン学部 白石教授



国際地域学部 坂元教授



各学部によるプレゼンテーションの様子

立教大学BLP参観報告

佐藤 崇(経済学部 講師)

「学部FD活動状況報告会」で日向野教授にご講演いただいた、立教大学経営学部経営学科のBLP(ビジネス・リーダーシップ・プログラム)。今回、日向野教授のご厚意もあり、7月7日(火)に本学教職員5名が立教大学に赴き、実際のBLP講義や、講義後の教員・SA合同ミーティングを参観させていただきました。

参観日時：平成27年7月7日(火)

13:15~14:45 「BL0(ゼロ)」(経営学部1年生必修科目)参観

15:00~16:00 教員SAミーティング参観

場所：立教大学池袋キャンパス

立教大学経営学部は、権限やカリスマによらない新しいリーダーシップ概念に基づくリーダーシップ教育を掲げ、その成果は大きな注目と高い評価を集めている。筆者らは経営学科のコア・カリキュラムであるBLPの導入に当たる1年次春学期「リーダーシップ入門(BL0)」の1クラスと、その直後の教員・SA(Student Assistant)による定例ミーティングを参観する機会を得た。

BL0の内容は産学連携PBLであり、グループワークがメインとなる。BLPではSAが単なるグループワークのファシリテーターを超えて、授業そのものの進行を任されている(参観したクラスのSAはまだ2年生であるが、某有名テーマパークのアト

ラクションキャストのような見事な進行で授業を取り仕切っていた)。おそらくそのことの寄与が大きいためであろう、1年生の最初の学期であるにもかかわらず、アクティブ・ラーニングに付きものの停滞や躊躇の類は全く見られない。

定例ミーティングでは、各クラスの教員とSAが一堂に会してその週の振り返りと次週の内容についての議論を行う。「不満を苦情として伝えるのは消費者、不満を提案に変えて持っていくのが



「BL0」の講義風景



教員とSA合同ミーティングの様子

リーダーシップ」としばしば説明されるが、全員が「受講生を単なる消費者にさせない」ことを念頭に置いており、学部の教育目的であるリーダーシップの養成が構成的理念としてBLPを創りあげているのだと感心する一方で、まさにそれゆえに他所でBLPをそのまま導入することは難しいことなのかもしれないと感じた。

平成27年度 新任教員FD研修会

研修部会長 藤澤 誠（食環境科学部 准教授）

開催日時：平成27年7月11日（土）10:00～14:30

会 場：白山キャンパス

研修会：1402教室

グループディスカッション：1405、1408、1511教室

参加人数：35名

PROGRAM

1. 開会挨拶

2. 講演「東洋大学におけるFDの取り組み」

3. 【第1部】学生FDチームの活動報告及び意見交換
「学生FD活動とはなにか」

【第2部】グループディスカッション

～テーマ「学生の意欲的、主体的な授業参画を促す授業手法とは」

グループディスカッション内容の発表・質疑応答

4. 総括・閉会挨拶

平成27年7月11日（土）に平成27年度 新任教員FD研修会が開催されました。この研修会は東洋大学の新任教員を対象とし、本学のFD活動についてご理解をいただくとともに、各教員の持続的な教育改善活動の支援を行うことを目的としたものです。例年、ご着任後3か月ほど経過し、本学の校風に慣れ、実際の授業運営に対する課題等が健在化するこの時期に実施しております。



藤澤研修部会長

研修当日は、はじめに神田雄一FD推進センター長より、「東洋大学におけるFDの取り組み～教育の質向上を目指して～」と題し、講演いただきました。現在の大学は主体的な学びへの質的変換が求められていること、さらには大学への進学率が50%を超えるユニ

バーサル・アクセス型にあつて、大学の使命が変わってきていることから、教育の質を担保するためにFDの必要性が生じていることといった背景から、東洋大学のFDの組織および全学的なFD活動（TA/SA FD研修会、学部FD活動状況報告会、教育改善シンポジウム、新任教員FD研修会、一般教員FD研修会、英語で授業を行うためのFD研修会、FD推進委員会・各部会の開催）などについての説明がなされました。

その後の第1部では、学生FDチーム代表の齊藤さん（社会学部3年）から学生FD活動についての説明、活動の紹介、今後の展望について報告がありました。活動内容としては、「しゃべり場（とよとーく）」、「東洋授業の声コンクール」、ニュー

スレーター発行、ホームページ開設、履修相談会の紹介がなされ、活発に活動している様子がうかがえました。また、学生FDチームが現在抱えている問題として、白山キャンパスに限定された活動に留まっていること、アドバイザーとなる教員の不在、スタッフの人数不足、学内での認知度不足などがあることが報告さ

れ、教職員の更なる協力が必要であることが説明されました。

第2部は、グループディスカッションを実施しました。今回、グループディスカッションの実施に際して、今年度の新任教員全員に「事前アンケート」の提出をお願いいたしました。事前アンケートでは、授業を進めている上で感じになられている



神田センター長による講演

こと、苦心しておられること、他の先生の工夫を知りたいこと、およびこれまでの教歴年数についてご回答いただきました。教歴年数は表1のように広範囲に分布しており、新しくご着任された先生方

が、多様なバックグラウンドをお持ちであることが示唆されたことから、今年度は教歴年数ごとに6グループに分かれ、各グループにFD推進委員がファシリテーターとして加わる形式でディスカッションを進行しました。一方で、ディスカッションテーマについては、教歴年数に関わらず関心の高かった「学生の意欲的、主体的な授業参画を促す授業手法とは」をメインテーマとし、「大教室（orゼミ単位等）での授業手法」、「欠席者、遅刻者への効果的な対応方法」、「学力、意欲の異なる学生に対応するための工夫」、「効果的な情報メディア（ToyoNet-ACE等）の活用方法」といった切り口から議論をしていただきました。最後にグループごとに議論した内容を発表していただき、全体共有をしました。発表内容から、各グループとも活発な議論がなされた様子を窺い知ることができました。

研修会後のアンケートでは、多くの先生方からこのような研修会が定期的にあるとよいというご

表1. 教歴年数と人数

教歴年数	回答者数(人)
0年～2年	12
3年～5年	15
6年～9年	8
10年～12年	3
13年以上	8
合計	46



学生FDチームからの活動報告

意見をいただきました。このようなご期待に添えるよう、一般教員 FD 研修会にも尽力して参りますので、ご参加いただけましたら幸いです。



グループディスカッションの様子



ディスカッション内容の発表

参加者の声

山崎 宏史(理工学部 准教授)

新任教員 FD 研修会が、7月11日に白山キャンパスにおいて開催された。冒頭、神田FD推進センター長、学生FDチームによる講演の後、大学教歴年数ごとにグループに分かれ、グループディスカッションを行った。テーマは、「学生の意欲的、主体的な授業参画を促す授業手法とは」である。

私の参加したグループは、大学教員歴の無い5名である。参加者がテーマについて、苦労している点や、良いと思って実施していることなどを自由に語り、それらについて活発な議論がなされた。論点を集約すると以下の通りである。

① 授業出欠の位置付け、② シラバスの活用、③ 学生とのコミュニケーション

その中でも特に③では、様々な意見があった。学生にとっては、教員が自分を認識していないと思っているのではないか、という意見があり、学生の名前を覚える、挨拶をする等により対応できるのではないかと。試験においては、試験後の解説や試験結果へのコメント等、学生個人の力量にあった個別対応を心掛けることが有効であるとの意見があり、そのために、TA、SAも活用するという意見があった。また、授業中、学生同士で話し合わせることで、学生相互間や教員とのコミュニケーションが図り易く、さらに、授業後半の集中力が増す、といった体験談もあった。

今回、このFD研修会に参加したことで、教員相互の体験談や工夫も聞け、研修会で得たものを今後の授業に活かしていきたいと思う。また、同じ立場の教員と話し合う機会を持て、今後の教育活動への心強さにも繋がる1日となった。



参加者の声

米原 あき(社会学部 准教授)

7月11日、着任後は初めてのFD研修に参加した。グループ討議の議題は『学生の意欲的、主体的な授業参画を促す授業手法とは』。以下に、筆者が所属したグループで話し合われた論点を紹介したい。

①グループワーク(GW)とパーソナルワーク(PW)のバランス：昨今話題になっているアクティブラーニングでは、少数チームで課題に取り組むGWが推奨されている。一方でGWには、「フリーライダー問題」や、グループ活動が苦手な学生への配慮など、課題も多い。我々教員は、学生の多様性に応じて、GWとPWのバランスを取ることが重要である。

②オンラインとオフラインのバランス：大規模講義でも「参加型」の授業を展開するためには、リアルタイムで発言を投稿してもらうなど、ICTの活用が欠かせない。一方で、配布物の手渡しや講義室の巡回など、できる限り学生ひとりひとりと直接コンタクトをとり、「個対個」の関係を確認できる機会を作ることも、教育効果を高めるうえで大切である。

③ハード面の整備：キャンパスによってはプリンターやPCなどの設備の不足から、学生がオンラインで事前配布された配布物を印刷できないまま授業に臨むなど、「主体的な授業参画」の妨げとなる状況も発生している。また、講義室の機の可動性が低く、GWを取り入れる際に支障をきたしている。多様な授業展開を実現させるためにはハード面の整備も不可欠である。

「よりよい授業」「よりよい教育活動」を実現するためには、個々の教員の努力は言うまでもないが、学生FDチームが推進しているような学生の参画も不可欠であり、ハード面の整備のような大学からのサポートも必須である。『チーム東洋大学』としての教員の位置づけと、「東洋大生がより主体的に学び行動し、東洋大生であることに誇りをもてる大学をめざして」(学生FDチーム理念)日々の教育活動があるのだということを確認できたFD研修であった。



～参加者のアンケートから(抜粋)～

- 他キャンパスや異なる研究専攻分野の教員同士でのディスカッションを通して新たな知見や明日にでも実践できそうなアイデアに出会うことで、とても勉強になりました。
- 他の先生方がどのような点で悩んでいるのか、こういった取り組みを行っているのか知ることができ参考になりました。
- 様々な事例を聞くことにより、自分の授業を見直すいい機会となりました。
- 教歴が少ないため、参考になる事が多く、有意義な研修でした。
- FDの全体的な方向性が理解できたことで、今後の授業で具体的にどういった点に注意し、方法や内容を検討すればいいのか考えやすくなった。
- “学生FD”の取り組みを知ることができ、よかった。
- 少人数のグループディスカッション形式であったため、意見を言いやすく、非常に濃密な話し合いができた。
- 今後も教育の質向上のために、キャンパスや分野の垣根を超えて情報共有できるように、定期的な開催があると良いと思います。
- 想像以上に、あっという間で有意義でした。教員が自身を振り返るいい機会であると思います。

カリキュラム・マップ作成の進捗報告

昨年度、FD推進センターは全学カリキュラム委員会との合同企画として、以下の講演会とワークショップを実施しました。

- 1) 講演会「カリキュラムデザインを考える～カリキュラム・マップによる体系化の試み～」(4月26日)
- 2) ワークショップ「カリキュラム・マップ作成に向けたワークショップ」(8月1日)
- 3) 講演会「国際化に向けた科目ナンバリングの作成～単位互換と学習分析」(11月21日)
- 4) 特別講演会「クォーター制(4学期制)の導入と課題～柔軟なアカデミックカレンダーを考える～」(12月13日)

今回、このうち、カリキュラム・マップの作成について、現在の進捗報告をいたします。



昨年度の「ワークショップ」は全学科の教員・担当職員参加のもと開催されました

カリキュラム・マップ作成方針

本学におけるカリキュラム・マップとは、各学科のディプロマ・ポリシーを前提として、「カリキュラムにおける授業科目間の系統性・関係性を図示化したフローチャートやダイアグラム」と位置づけたうえで、以下の条件を満たすものとする。

- 1) ディプロマ・ポリシーを前提とし、学科の専門科目において学生に身につけさせる知識、スキル、態度などを抽出し、その知識等と各科目区分、授業科目との対応関係が分かるようにする
- 2) 各学科の専門科目の全科目を配置する。ただし、次の点は、各学部学科の判断に委ねる。

- ・科目の最後にA・BやI・IIなどがついている科目は、その目的に応じて、個々に扱うことも、まとめて扱うことも可能とする
 - ・学部共通科目については、その性質に応じて、専門科目に含めることも、含めないことも可能とする
- 3) フローチャートやダイアグラムは、専門分野に適した形態を、各学部学科で考案して作成する
 - 4) シラバス内容を鑑み、科目区分間、授業科目間の関係性や履修順序が分かるようにする

カリキュラム・マップ作成にあたって

木村 一(文学部 准教授)・信岡 朝子(文学部 准教授)・山本 亮介(文学部 教授)

カリキュラム・マップとの関わりは、昨年8月に開催された「カリキュラム・マップ作成に向けたワークショップ」に学科カリキュラム担当として参加したことから始まる。

色分けした付箋に科目を記し、マップを作成したことは、達成感のある作業であったが、複雑さを増し、位置づけの悩ましい科目の検討が必要であることも実感する機会となった。

今回、この経験は大変参考になったが、既存のディプロマ・ポリシーが存在する中、各科目をカリキュラム・マップの中に組み込むことはやはり困難を伴った。そこで、教務の職員とともに試行錯誤しながら、箇条書きにあらためたディプロマ・ポリシーを専門・総合、理解・実践といった深さや広がり留意して、DP1～4として設定した。そして、第1～8セメスターの横軸との関わりを意識しながら、併行して作成していた科目ナンバリングの難易度をもとに各科目を配した。

ディプロマ・ポリシーと科目ナンバリングを可視化し

たカリキュラム・マップの存在は、学生と教員、さらには入学希望者にも意義あるものとなるはずである。これからも時間の許す限り手を加えていきたい。



現在検討を進めている文学部日本文学文化学科カリキュラム・マップ案

今後の教育改革に向けて

副学長・教務部長・全学カリキュラム委員会委員長 岡本 充弘(文学部 教授)

カリキュラムを運営する単位は学部や学科専攻ごととされ、その組織のなかで学士の学位を与える教育として適切な教育課程を設けることとなっているが、2008年の文部科学省中央教育

審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」が出されて以降、授業内容や授業方法、カリキュラム全体や科目自体を見直すといったことが、課題とされるようになった。

関連諸法規の整備によって、FD活動の推進、教育方針（A P/C P/D P）の設定、学修時間の確保、学習成果の指標開発などが求められ、大学は学生が修得する能力をより明確にし、その教育内容の質を保証していくことが必要とされている。カリキュラム・マップと科目ナンバリングは、カリキュラムを可視化・体系化していくツールとして期待されるものである。また科目ナンバリングは、今後海外からの受入れ学生や国内学生が海外の大学で取得した単位の認定にも活用されることとなる。

本学の教育は、新たな転換期を迎えている。学部や学科の垣根を越えた協働や教職員間の連携による教育改革は、それぞれの学部や学科が支える学問分野や学際領域の価値を更に高めるために必要である。前教務部長の杉山先生により進められてきたこの改革をさらに進展させたい。

開催案内

カリキュラム再構築の3つのポイント ～カリキュラム・マップのネクスト・ステージ～

主催：全学カリキュラム委員会 共催：FD推進センター

日時 平成27年10月17日（土）14：00～16：50
会場 白山キャンパス 125記念ホール
講師 佐藤浩章 氏（大阪大学教育学習支援センター 教授）

当日は、カリキュラム・マップを通じたカリキュラムの検証方法を講演いただいた後、各学部・学科で作成されたカリキュラム・マップの相互評価をし、ブラッシュアップを図るワークショップの実施を予定しております。詳細については、教務担当課より別途ご案内いたします。

GPA活用アンケートの実施報告

本学では平成25年度入学生よりGPA制度を全学導入しております。現在、当該学期および累積のGPA値を成績表へ示すことで、学生が、自身の成績の振り返りをするを可能としております。

一方で、その活用については、学習指導のみならず、国際化やキャリア教育などへの展開が考えられますが、現在は、各学

部・学科の裁量内で活用しているのが現状です。そこで、今後FD推進委員会を中心に、全学におけるGPAの活用を検討すべく、各学部におけるGPAの活用状況アンケートを実施しました。今後は、効果的な学習指導に資する全学的な取組の検討を進めてまいります。

全学部共通		●東洋大学第1種奨学金(成績優秀者)対象者選考に活用
文学部		●海外文化研修における学生派遣のための選考に活用
経済学部		●全学科における成績優秀者(1～3年次)の選考に活用 (前年度のGPA値が上位のものを成績優秀者として表彰)
経営学部		●2016年度の新カリキュラムより、2年次の英語クラス分けに、TOEICの点数等とともにGPAを利用する予定 ●成績優秀者選考への活用を検討している
法学部		●成績優秀者の選考に活用
		●各種奨学金の対象者選考に活用
		●交換留学生の受け入れ、留学希望者の学力指標をはかるために活用
法学部		●大学院内部進学者の選考に活用 ※以下の点について活用を検討している ●成績不振者(現行は「単位僅少者面談」を春秋2回実施)の抽出等 ●SA(人材プール化)の選考指標 ●学生の意識調査
社会学部		●成績優秀者および海外留学に際しての奨学金授与者の決定に活用
国際地域学部		●国際地域学科において、入試成績とGPAの関係を見ながら教育活動や入試戦略等に活用している
ライフデザイン学部	学部全体	●4年生卒業時の学部長賞、校友会学生研究奨励賞の該当者として、GPA値の優秀者を選定している ●入試の受け入れ予定数を決定する際に、過去の入試種別の入学者のGPA値を参考に行っている ●指定校推薦入学者のGPA値を参考に、指定校の選定および見直しを行っている
	人間環境デザイン学科	●3年次からのコース配属に際し、GPA値の順位に従って振り分けを行っている
理工学部	応用化学科	●校友会学生研究奨励賞の候補者推薦に際して利用 ●研究室の配属決定時に活用 ●大学院応用化学専攻への推薦条件として、次年度からGPAを使用する予定である
	機械工学科	●GPAに基づく学年順位の上位数名に機械工学科奨励賞を授与している ●学科4年生の卒業研究Ⅱのための研究室配属希望が定員を超えた際に、GPAの学年順位に基づいて、配属を決定している ●大学院機能システム専攻への推薦条件として、次年度からGPAを使用する予定である

理工学部	建築学科	●各学年担任が学生指導を行う際、取得単位数と共にGPA値を参考にしている ●学部3年秋学期の、プレゼミ生の受け入れに際して、研究室への配属希望者が定員を超える場合に、研究室によってはGPAを参考にして決定する予定である ●理工学研究科建築学専攻への推薦入学の対象者選定標準として、GPAを活用する予定である
	生体医工学科	●研究室配属決定の際、GPA値の高い学生から第一希望が通る選定方法にしている ●実験科目(プロジェクトV及び生体医工学実験II)における班分け時にGPAの平均値が均等になるように割り振っている
	電気電子情報工学科	●研究室配属時の優先度の指標として来年度より利用する予定 ●父母懇談会出席者への成績目安として示した ●就職活動における大学推薦の順位付け時に利用 ●大学院への進学案内(進学者の増加のために、グループ担任による面談時にGPAが高い学生への大学院進学を勧める)
	都市環境デザイン学科	●学内奨学金の選考時に活用 ●研究室配属の際、GPA上位者ほど配属希望が通りやすいシステムを今年度から採用 ●大学院都市環境デザイン専攻への推薦条件として、次年度からGPAを活用する予定 ●GPAに基づいて学年上位者数名を、学位記授与式の際に表彰する予定 ※以下の点について活用を検討している ●学修相談会の対象者の絞り込みを、従来は単位数のみを基準としていたが、GPAも考慮して行う。 ●インターンシップなど、履修者を制限する科目の履修者の選抜に用いる。
総合情報学部		●研究室配属決定のための、学年成績順位に利用予定 ●各種奨学金等推薦のための、学年成績順位に利用予定 ●大学院への推薦条件として利用予定
生命科学部		●現3年次より成績優秀者の選出に活用
食環境科学部	学部全体	●成績優秀者の選出に活用
	食環境科学科	●「研究室仮配属」選考方法に活用 ●本年度教員採用試験の推薦者決定の際に利用
	健康栄養学科	●「研究室仮配属」選考方法に活用

平成27年度 TA(ティーチング・アシスタント)FD研修会

開催日時：平成27年4月18日(土)13:00～15:00(朝霞キャンパスのみ4月22日(水)16:20～18:20)

会場：白山キャンパス 3号館ナレッジスクエア プレゼンテーションルームA

川越キャンパス 2号館2107教室

朝霞キャンパス 2号館2108教室

板倉キャンパス 講義棟第2会議室

昨年度に引き続き、本学における継続的な教育改善への取り組みの一環として、TAのためのFD研修会を実施しました。

今年度も川越・板倉キャンパスにおいてはTAのみならずSAも参加対象としたことから、従来の「TAハンドブック」の内容をさらに充実させて「TA/SAハンドブック」へと刷新し、研修会のテキストとして使用しました。

研修会は、FD推進委員による「TA制度の概要説明」と参加者による「グループ討論・質疑応答」という二部構成のもと、白山・川越・板倉・朝霞の4キャンパスそれぞれで、計106名の参加者のもと実施しました。

白山キャンパス 長谷川 勝久(文学部 教授)

2015年4月18日(土)13時から15時での2時間にわたり、ナレッジスクエア内のアクティブセミナー室にて開催された。参加人数は15名であった。

はじめに、「TA/SAハンドブック」を基に、次の内容の講義が筆者によって行われた。

1. TA研修会の目的
2. TAが採用される目的
3. TAとSAの違い
4. TA/SA業務の役割
5. 資格と採用期間
6. 文系科目における業務の具体例
7. 一般的な注意事項
8. ハラスメント及び人権侵害の防止
9. 個人情報の取り扱いに注意
10. これだけは知っておきたい個人情報保護



次に、研修生は、グループに分かれてそれぞれの学部、学科におけるTAやSAの業務内容、「クラスで親しくなった学生からコンパに誘われ、メルアド等の連絡先を交換したいと言ってきた。どう対応すべきか」といった予め設定された課題に取り組んだ。休憩を挟み、最後に、それぞれのグループで話し合ったことについて発表をして、グループ間での意見交換を行った。参加者からは、他学科の人といっしょに研修を受けることで、TAの業務内容や抱えている問題点などが学部や学科によって異なることがわかったなどの感想が聞かれた。総じて充実した研修会であったと思われる。

板倉キャンパス 三浦 健(生命科学部 准教授)

板倉キャンパスにおいて、TA/SA研修会を、4月18日(土)の午後に開催しました。本年度は36名の参加がありました。参加者には、事前にTA/SAハンドブック、ワークシートを配布し、目的・役割や業務内容等を理解した上で講習会に参加してもらいました。当日は、TA/SA制度の概要についてFD推進委員から説明があり、あらためて東洋大学における教育サポートの意義の理解を深めていただきました。その後、TA経験者をリーダーに据えた7～8名からなるグループの中で各々の意見を出し合ってディスカッションを行いました。さらに各グループから問題提起された項目を、全参加者で再討議しました。板倉キャンパスでは、TA/SA業務の多くは実験講義の補助であるため、「教員(TA/SA)とのコミュニケーション」「実験内容の理解」「実験中の安全性の確保(ヒヤリ・ハット!)」の重要性を共通認識として持つことの大事さを再確認しました。一方、教育サポート役として「実験結果・考察や課題についてどの程度、助言(答え)をして良いか?」など、サポート度合い(担当教員による要求)の考え方に違いがあることや、「実験講義後のSNSによる教育サポート」などについても話題となりました。これらの事項に関しては、担当教員との事前確認が必要であることで意見の一致をみました。今後、「peer support」を含めた学生の学生による多様な教育指導方法も視野に入れた教員とTA(SA)の関係・連携が重要になってくると感じました。



川越キャンパス 藤松 信義(理工学部 准教授)

川越キャンパスでTA/SA研修会が4月18日(土)に実施された。今年度は大学院生のTAが31名、学部生のSAが13名、合計44名が参加した。研修の目的は、TAとSAが「TA/SAハンドブック」に記載されている内容を理解し、教育補助員として授業で主体的に行動できるようになることである。初めに、TA/SA制度の概要を説明し、本学における教育補助の目的と役割について解説した後、TAとSAに対する期待を述べた。次に、研修会前に予め配布していたTA/SAハンドブックの理解度を確認するワークシートを元に、5名程度でグループディスカッションを行った。TA、SAが教育補助員として携わる授業の特性を考慮した上で、円滑な授業運営の為に何をすべきか、TA、SAによる学生の指導方法、学生とTA、SAの距離感、非協力的な学生への接し方などについて議論した。いずれの内容も、担当教員と十分に話し合いを行い、講義に臨むことが大切であるという意見が出され、教員とTA、SAとの関係が重要であることが再確認された。出席者からは「学生にどの程度まで関わってよいかわからないのが解決できた」、「一人では見落としがちな観点から意見を聞くことができた」などの意見が寄せられた。担当教員と教育補助員が連携して授業を実施できることが、学生にとってよりよい授業に繋がるものと考えている。今後も満足度の高い授業を目指して、TA/SA研修会を充実した内容にしていきたい。



朝霞キャンパス 名取 発(ライフデザイン学部 准教授)

4月22日(水)、朝霞キャンパスでは初となるTA研修会を行った。これまで朝霞キャンパスのTAは、白山の研修会に参加するという形を取っていたが、大学院授業との兼ね合いで出席が難しい等の問題があり、参加率向上の目的で本年度からは朝霞キャンパス単独での開催となった。初年度ということもあり、対象者はTA限定とした。

参加者は、研修会対象の新規TAほぼ全員の10名であった。第1部として「FDとTAの役割について」を「TA/SAハンドブック」を基にレクチャーを行った。第2部として、グループディスカッションを行った。進め方は、白山でのこれまでの流れを踏襲する形で行った。学生を2グループに分け、各グループに教員1名がファシリテーターとして付き議論を行った。テーマはTAが直面する様々な場面における判断に関するものが中心であった。異なる専攻の学生が集まったので最初は比較的静かであったが、徐々に活発な討議となっていた。最後に各グループの意見を発表し、2グループとも正しい理解ができていたことが確認された。

その後の学部FD推進委員会では、グループワークの設問の改善点についての話し合いを行った。TAの行動の規範については、状況によって判断が難しい部分も無いとは言えず、今後も引き続き議論を行っていく必要性を感じた。



学内FD活動

春学期 各学部等の主なFD活動一覧 (平成27年4月～平成27年7月)

4月14日(火)	平成27年度 第1回全体FD会議(法科大学院)
4月15日(水)	文学研究科長と専攻長によるディスカッション ー授業評価アンケート結果を活用した教育改善についてー
6月16日(火)	平成27年度 第2回全体FD会議(法科大学院)
6月17日(水)	ライフデザイン学部 学生意見交換会
6月24日(水)	FD研修会 「新カリキュラム制作に向けた学部内研修会」 (ライフデザイン学部)

開催案内

平成27年度 教育改善対策シンポジウム

「成績評価の厳正化とGPAの活用について」

共催：IR室、全学カリキュラム委員会

日 時 平成27年11月20日(金)
16:30～18:00

会 場 白山キャンパス 125記念ホール

対 象 本学教職員
(非常勤講師の先生方も参加可能です)

講 師 夏目達也 氏
(名古屋大学 高等教育研究センター)

専門領域：高等教育論、職業教育論
研究テーマ：

- 大学におけるファカルティ・ディベロップメントの組織化
- 大学改革のためのリーダーシップ形成・発揮
- 高等教育におけるキャリア教育

※当日はIRシンポジウムも併せて開催する予定です。
詳細については、別途ご案内いたします。

平成27年度FD推進ワークショップに参加して

椎崎 一宏(生命科学部 准教授)

去る8月6日から7日に浜松にて開催された新任教員向けFDワークショップに参加させていただいた。私は今年度から教員として初めて講義を行っているが、今日の大学における講義が、我々が学生だったころの講義と様変わりしていることは予想できる。しかし、各教員が講義にどのような工夫を凝らしているかは、学生を通じてわずかに耳に入ってくる程度である。そこで、本ワークショップにて講義改善のヒントを得られればと、期待を持って臨んだ。

ワークショップ初日は全体説明および昨年の参加者による発表が行われた。その後、専門分野を異にする小グループにてディスカッションを行った。最も参考になったのは、各教員の方々が担当する講義の「位置づけ」すなわち、何年次の学生に、何をどこまで理解してもらうかを強く意識して講義を組み立てている、という点であった。

2日目には各教員が15分間の模擬授業を行い、互いに評価した。ほとんどの教員が学生に対する発問や挙手、学生同士のディスカッションタイムなど、授業の双方向性を意識した講義を行われたのが極めて印象深かった。その後、再びグループ内で授業の手法や、学生の聴講態度への注意方法などが話し合われた。

私はパワーポイントを用いた学会発表に準じた講義を行ってきたが、この方法では学生が「理解した気になる」ため、知識の定着にまで至らないことも多い。今回のワークショップで学んだ授業の双方向性を取り入れることで今後の講義の改善につなげたいと思う。



平成27年度FD推進ワークショップに参加して

大上 安奈(食環境科学部 講師)

8月6日・7日に浜松にて開催された日本私立大学連盟が主催する新任教員向けのFD推進ワークショップに参加させていただいた。初日は、全体説明、昨年度参加者による事例報告、模擬授業説明、グループ討議および模擬授業のワークシート作成という内容で構成され、2日目は模擬授業および全体の振り返りを行った。

初日の事例報告では、2名の方が昨年のワークショップで得た経験をどのように現在の授業に取り入れているかを説明された。その後のグループ討議では、7名ずつのチームに分かれ、授業運営において現在抱えている悩みなどを挙げ、解決するための話し合いを行った。具体例としては、学生のモチベーションを上げ、興味を持たせるための方法として、学生を数名のグループに分け、課題を与え学生同士で考えさせることが提案された。学生同士で考えさせることで、学生がお互いに切磋琢磨し、学習効果も高まるとのことであった。この方法は、考える力や応用力の向上にもつながると考えられる。

2日目は、グループごとに、各自が作成した授業案に基づき15分間の模擬授業を行った。使用できるものは、ホワイトボードとペンのみであった。聞き手は、授業技術、授業運営および授業構成などの点に着目し、講評を行った。

参加者から自身の模擬授業への講評をいただく中で、日頃は気づかない自身の癖などが客観的に評価され、改善すべき点などが明確になったことは、2日間のワークショップにおける大きな収穫となった。よりよい授業を行っていくためには、常に努力することが必要であると感じた。



学生FDチームの紹介と活動報告

FD推進センター学生FDチーム代表 齊藤 克弥(社会学部社会学科3年)

学生FDチーム紹介

学生FDチームは2010年に有志学生により結成され、今年度で活動6年目を迎えます。学生FD活動は「授業をもっとおもしろくしていきたい」、「主体的な『学び』の機会を増やしたい」、「東洋大学が好きであるからこそもっと大学をよくしたい」という想いを活動の出発点としています。こうした「東洋大生がより主体的に学び行動し、東洋大生であることに誇りをもてる大学をめざして」という理念を基に、「学生の声や想いを、活かした大学へ」「活動の認知度と、授業への関心を高める」「学生の学びへの主体性向上を図る」という3本の柱を軸に据え、活動を展開しています。

学生FD活動とは、学生の大学生活の基礎となる「授業」を、学習者である学生の視点を取り入れ、教員、職員、学生が三位一体となって改善、向上させようとする取り組みのことを指します。学生FDチームは2014年度よりFD推進センター直属の組織となり、今年度よりFD推進センターの規程に明文化されました。このことにより、今後もより一層教職員と緊密な連携を進めていきたいと考えております。

学生FDチームは現在、12名のスタッフで活動をしております。先述の活動の柱に沿った企画を通して、学生の声を集め、それを教職員側へ届けるというアプローチだけでなく、同じ学生という立場から他の学生へアプローチをする企画も実施しており、こうした学生目線の企画は毎回好評を博しております。また、チーム内で、FDや高等教育に関する勉強会を定期的に

行い、FDに関する専門性を高め、活動に反映させています。さらに、FD活動を行っている他大学との交流も積極的に行っています。その一



学生FDチームスタッフ

例として、全国規模で行われる学生FDサミットには設立当初から参加しており、2013年度春には関東圏初の全国サミットを東洋大学で開催するまでに至りました。

前述の理念や柱に沿った活動をするためには、学生FDチームは全学的な組織であるべきですが、実際には白山キャンパスのみでの活動に限定されていること、また全学的な活動をするためのスタッフ数が不足しているという課題を抱えています。何よりも、「学生FDチーム」という存在の認知度が学内では依然として低いことは、早急に解決すべき問題です。

学生FDチームは今後も、東洋大学で「学生の声や想いを活かすこと」を実現し、「学生の主体的な学び」を確立し大学教育の質向上を目指した取組を進めて参ります。そのためには「教職員の立場からのご意見」も不可欠です。今後とも、学生FD活動へのご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年度春学期 学生FDチームの活動について

学生FDチームの企画として、春学期に「先輩による履修相談会」「新入生向けしゃべり場」「川越キャンパス出張企画」「新任教員FD研修会における発表」を行いました。

「先輩による履修相談会」は、履修登録期間中の新入生を対象に、履修登録に関する不安を解消し、学びへの主体性を高めるために行った企画です。学部ごとに分かれて授業の特色や履修における注意点を伝え、2日間で計60名近くの新入生に参加いただきました。新入生からは「履修の不安が消えた」「授業が楽しになった」という声を聞くことができました。

また、学生FD活動を全学に展開するため、初めての白山以外のキャンパスにおける



履修相談会の様子

企画となる「とよとーく」を川越キャンパスにて行ないました。この企画は教職員と学生が一同に会し、テーマに沿って意見交換することを趣旨とし、川越キャンパスの自習環境や理想の授業について熱い議論を交わすことができました。キャンパスが違うと同じ大学の学生であっても考えや意見が異なり、学習自習環境の違いや理想だと考える授業の違いも知ることができました。

秋学期も引き続き、学生と教職員の双方にアプローチするような企画を検討中です。今後も学生の「声」を集め教職員と連携しながら、活動を展開していきたいと考えています。



各学部・研究科におけるFD活動Pick Up ～ライフデザイン学部における学生意見交換会～

名取 発(ライフデザイン学部 准教授)

ライフデザイン学部では、2010年度より毎年、学生と教職員の意見交換会を開催している。これは2009年、当時の高橋儀平学部長の発案で、授業や学生生活に関わる事柄を学生と教職員が、フラットな関係で相互に発言できる場を作ってきたものである。出席者は、教員からの案内や事前のポスター掲示によって集まった学生と、教員側は学部長、学科・コース長、FD委員、その他の教員、職員側は、事務部長、事務課長、教務担当、学生生活担当、その他の職員で、年に1,2回行っており、毎回40～50人規模となる。昼休みを利用する事もあって出席者分の軽食を用意しており、和やかな雰囲気では進んでいく。



本年度の意見交換会は、

去る6月15日(水)に学生ホールにて行った。出席者は学生22名、教員は白石弘巳学部長を始め14名、

職員9名の、合計45名であった。今回意見として出されたものは、まず授業態度に関わることで、あるグループワーク型の授業でやる気のある学生と無い学生の温度差があり、学習効果が薄れてしまっているのではないか、というものであった。これについてはその分野の担当教員から授業の工夫・改善を行うという回答が得られた。さらに他

の教員からは、学生側の改善努力も必要であり、相互補完によって授業環境を良くしていく必要があるのではないかと発言もあった。

このほか、教室の映像設備について、現在修理中

の設備の修理完了をもっと早くできないかという要望や、実習等で使用するトレーニングルームの管理運営に関する意見があり、それぞれ速やかに対応する事がその場で約束された。

過去の意見交換会では、例えば、英語カリキュラムを充実させて欲しいとの要望があった。学部における近年の英語教育の強化、英語必修授業の増加の流れも相まって、ラーニングサポートセンターにおける英語の独自プログラムの充実につながった。また、必修授業と選択授業の時間割構成に関する改善等も行いう事ができた。学生生活に関することでは、食堂の改善、喫煙所の廃止や移動などが特に目立った成果である。

教員は、常に授業等の改善を行い、職員は教育環境等の改善を常に行っているが、これに加えて、このような学生ならではの視点からの意見は大変貴重である。今後もライフデザイン学部の良き伝統として、学生と教職員の意見交換会を継続していきたいと考えている。



他大学との交流

「関東圏FD連絡会」

第18回「関東圏FD連絡会」

日時：2015年6月23日(火)

場所：青山学院大学 15号館5階 第13会議室

平成21年度より青山学院大学、法政大学、立教大学、東洋大学のFD担当者が集まり、同規模の私立大学が抱えるFD活動の問題解決と情報収集を目的とした意見交換会

を開催しております。青山学院大学で行われた第18回関東圏FD連絡会では、授業改善アンケートのWeb化に伴うメリットやデメリット、授業科目のナンバリング等について情報交換がなされました。また、学生FDチームの活動を学内で周知するための効果的な広報について各大学の取り組みを共有し、本学も得るところが多くありました。また、関東圏FD連絡会に新しく國學院大学が加わることとなり、今後は各大学との連携をより深めるとともに、本学のFD活動の改善・発展に努めて参ります。

「全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)」

2015年6月13日(土)に法政大学 市ヶ谷キャンパスにて開催された「2015年度全国私立大学連FD連携フォーラム」の第1回総会、ならびにパネルディスカッションへ参加いたしました。パネルディスカッションでは、他大学よりラーニング・コモンズ設置による教育の成果や学習支援サービス等について報告がなされました。また、本学IR室の劉文君准教授がパネリストとして参加され、東洋大学におけるIR活動を通じたFD改善を目指す試みと課題について報告をされました。今後とも加盟校との情報共有を通じて、本学におけるFD活動の推進に役立てていきたいと思っております。

FD推進センター活動報告(平成27年3月～平成27年7月)

FD推進委員会

◆平成26年度第6回

●日時：平成27年3月19日(木) 10:00～12:00

報告1 各部会活動状況報告

報告2 センター長報告

- ①FD推進センター規程の改正について
- ②英語で授業を行うためのFD研修会の開催について
- ③平成26年度秋学期授業評価アンケートの実施状況について
- ④学生FDチーム活動報告

審議1 平成27年度 ティーチング・アシスタント FD研修会の開催について

審議2 平成27年度授業評価アンケートの実施について

審議3 学部FD活動状況報告会の開催について

協議1 平成26年度FD推進センターFD推進委員会 活動の振り返りと課題抽出

協議2 スーパーグローバル大学創成支援(SGU)の取り組みへの対応について

◆平成27年度第1回

●日時：平成27年4月25日(土) 10:00～12:00

報告1 平成27年度ティーチング・アシスタント FD研修会について

報告2 学生FDチーム活動報告

報告3 FD推進センター規程の改正について

報告4 学部FD活動状況報告会の開催について

審議1 平成27年度FD推進センターの活動方針について

審議2 部会長の選出及び委員の各部会への配属について

協議1 平成27年度FD推進センター活動スケジュールおよび委員会の運営について

協議2 学生FDチームスタッフへの学生の勧誘と推薦について(依頼)

◆平成27年度第2回

●日時：平成27年5月30日(土) 10:00～12:00

報告1 各部会活動状況報告

報告2 センター長報告

- ①学生FDチーム活動報告

審議1 平成27年度新任教員FD研修会の開催について(7/11)

協議1 GPAの活用に関するアンケート

協議2 UCLAの取り組みに関して

協議3 ヒアサポートに関して

◆平成27年度第3回

●日時：平成27年7月4日(土) 9:30～11:30

報告1 各部会活動状況報告

報告2 センター長報告

- ①全国私立大学FD連携フォーラムについて(6/13)

- ②第18回関東圏FD連絡会について(6/23 青山学院大学)

- ③国際連携本部事務課とのUCLAによる

- 英語FDプログラムの共催について

審議1 英語で授業を行うためのFD研修会について

協議1 平成27年度秋学期 授業評価アンケート結果の学生への情報公開トライアル実施について

研修部会

◆第1回(メール会議)

●日時：平成27年5月14日(木)

課題1 新任教員FD研修会の概要について

◆第2回

●日時：平成27年5月28日(木) 16:30～

課題1 平成27年度の活動計画について

課題2 新任教員FD研修会(7/11)の開催に際して

課題3 英語で授業を行うためのFD研修会の開催概要について

◆第3回(メール会議)

●日時：平成25年6月23日(火)

課題1 新任教員FD研修会における、グループディスカッションテーマ設定について(審議)

課題2 英語で授業を行うためのFD研修会開催概要の確認について(審議)

大学院部会

◆第1回

●日時：平成27年5月20日(水) 18:00～

課題1 平成27年度の活動計画について(概要)

課題2 大学基準協会からの指摘事項の改善について

課題3 大学院のシラバスの充実

課題4 大学院の課題と取組事例集(仮称)の作成

◆第2回

●日時：平成27年7月1日(水) 18:00～

課題1 研究指導計画の作成要領について

課題2 修士論文審査基準の作成要領について

課題3 大学院シラバスの作成要領・チェック基準の作成について

課題4 平成27年度の活動計画について(修正)

課題5 大学院FDの課題と取組事例集(仮称)の作成について

教育改善対策部会

◆第1回

●日時：平成27年5月20日(水) 15:00～

課題1 教育改善対策部会 年間活動スケジュール

課題2 学部FD活動状況報告会の開催について(5/30)

課題3 学生FDチームとの連携について

授業評価手法検討部会

◆第1回

●日時：平成27年6月17日(水) 14:40～

課題1 授業評価アンケート結果の経年比較について

課題2 授業評価アンケート結果の学生へのフィードバックについて

編集部会

◆第1回(メール会議)

●日時：平成27年7月9日(木)

課題1 「平成27年度FDニュース第16号」におけるページ構成について

学内公開活動

平成27年度TA(ティーチング・アシスタント)FD研修会

●開催日時：平成27年4月18日(土)

<白山キャンパス、川越キャンパス、板倉キャンパス>

平成27年4月22日(水)<朝霞キャンパス>

●参加対象：平成27年度採用のTA-SA(採用予定者含む)

●参加人数：106名(全キャンパス合計)

平成27年度学部FD活動状況報告会

●開催日時：平成27年5月30日(土)

●会 場：白山キャンパス8号館地下1階8B11教室

●参加対象：全教職員

●参加人数：74名

●講演テーマ：「ISAとともに作るPBL(アクティブラーニング)」

平成27年度新任教員FD研修会

●開催日時：平成27年7月11日(土)

●会 場：白山キャンパス1号館4階1402教室

●参加対象：平成27年度新任教員

●参加人数：35名

平成27年度FD推進センター組織

